

まえがき

美しい山々に囲まれた長野県伊那谷。その伊那谷を一瞬にして恐怖の底に落し入れたのは、三十六年六月発生の梅雨前線集中豪雨でした。降り続く雨のため山は崩落し、堤防は決壊し、荒れ狂った濁流が田畑を覆し、家を押し流したうえに、多くの尊い人命をも呑みごしました。

あけから三年。伊那谷は見事に復興されました。今年九月には「復興感謝祭」も行われ、人々は復興を祝うと共に、二度と水害のないことを祈りました。

本書は伊那谷災害の記録であります。あの大災害を直接経験した児童生徒の精一杯の叫びを、そして災害にめげずに力強く立ち上がり、リッパに生きぬいてきた彼らの姿を、多くの人々に知ってもらいたく、こうと思い、企画製作したのが本書です。

しかし、児童生徒の作品が災害全体を伝えることは不可能なことかも知れません。けれども、それがあつても、あるいはある一瞬のことであつても、読む人の心を打たずにはおかないものだ、私は考えます。

本書が被災地伊那谷の真の姿を伝えるのに少しでも役立つことを、また被災地の児童生徒が、世間の同情に甘えることなく、自分で力強く生きたく

— 4 —
さることを望むと共に、世間の人々、時にはきびしく、時には暖かい目を、
彼らに向けなくてはならない喜びです。本書がどうした目的の一助とも
なればこの上ない喜びです。

最後に、集中豪雨で亡くなられた方々の霊に、心から哀悼の意を捧げます。

昭和三十九年十一月二十三日

碓田栄一